

長い歴史から生まれた民主主義が実践された国 Denmark レポート

社会福祉法人 一石会
特別養護老人ホーム
風の樹 稲垣友紀

1. 視察日程

10月4日(土)

成田空港からコペンハーゲン空港へ移動

10月5日(日)

デンマーク一般事情についてレクチャー
(講師: 澤渡 夏代 Brandt)

10月6日(月)

高齢者ケアセンター・アスタースバイ訪問
担当: センターリーダー (Ms. ギッテ・リムキル)

高齢者ケアセンター・キャットホルムクリ
スチャナミナ訪問
担当: センター長 (Ms. Anette Katholm)
デンマークの子育て事情レクチャー
(講師: 澤渡 夏代 Brandt)

10月7日(火)

社会及び障害者センター訪問 (Social and
Handicapcenter/Park Job and
Aktivitetshus)
担当: リーダー (Ms. Peter Froby)

10月8日(水)

ブロンビュー・ストラ
国民学校低学年校舎訪問 (0~3年生)
担当: 副校長 Ms. Rikke Rubaek
Jorgensen
ヴィンディング総合保育園訪問
担当: Ms. Tine Burgard

10月9日(木)

森の保育園 Skovbo Skovbornehave
(スコブオー・スコヴァ・ネ・ハヴ) 訪問

担当者: Mr. Robert Grandahl

青少年クラブ viadukten (ヴィアドクテン)

訪問

10月10日(金)

社会精神居住施設 Solvang 訪問 (精神
疾患用居住ホーム)

10月11日(土)

コペンハーゲン空港から成田空港へ移動

2. デンマークについて

10月5日の澤渡夏代 Brandt さんによる
デンマークの経済及び一般事情をレクチャー
頂き、その国の概要を少し知る事が出来ま
した。

国の面積: 4万3千平方キロメートル (グリー
ンランドを除く) で九州とほぼ同じ
人口: 560万人 (2013年) で兵庫県とほぼ
同規模です。

国土は平坦で、一番高い山でも 174メー
トルしかない。農業国といわれるが、農業に
従事している人は国民の6%以下です。製造
の75%が輸出(年間農産品輸出額: 約2兆円)
されてる世界有数の農業国です。(デンマー
ク農業理事会日本事務所 HP より)

また、デンマークの一人当たりGDP(名
目米ドル換算)は近年日本を上回っていて、
米ドル換算の一人当たりGDPは5万6千
ドル(世界6位、2012年)で高い所得水準・
国際競争力がある国です。(国土交通省国土
政策局平成26年4月資料より)

消費税は25%、平均的な所得税が約46%
と高納税国で、手厚い社会福祉制度を実現し

ています。国民は、高い税金の負担が楽ではないと感じているだけに、政府がどのように税金を使っているかに、強い関心を持って注視している様です。

2011年の世界の幸福度ランキングでは、デンマークは第一位という結果です。その理由は、信頼出来る家族や友人がいる(97%)、次に、健康、満足、楽しいと言う順でした。

次に、デンマークの民主主義についてですが、1849年フレデリック7世王(1808-1863)が「民主憲法」に調印し民主主義がスタートしました。デンマークは社会福祉国家で民主主義を基本としています。

デンマーク人は、「多数決の原理」で考えるのではなく、徹底的な話し合いが原理と言う事で、多数派も、少数派の意見に一定の歩み寄りを見せながら、少数派も、少しでも自分たちの意見を反映させ様と妥協点を探るとの事です。

デンマークの政治・社会での物事の決め方は、多数決で押し切らず妥協点の探り合いにより、誰もが決定にながしか携わるのです。

写真は、ロスキレ大聖堂の横で、デンマー



クの民社主義について、中能さんからレクチャーを受けている場面です。

中能氏の説明は、道にある木が道路拡張の為邪魔になる、その木を持ち主に切って欲しいと頼んだが、納得されずに何カ月も説明に足を運んだ。それでも駄目だと言われたので、多数決で決めさせて下さいと申し込んだ時、持ち主は、木一本の為にこれだけの時間をかけ説明に来てくれた事に誠意を感じ、切る事に承諾した、と言う話でした。

日本の政治は、多数決で物事を決めて行き、少数派の意見は聞き入れられない事が多いです。これは本当の民主主義と言えるか、と言う事を考えさせられました。

3. 各施設の視察報告

今回の施設視察を通して、様々な方よりデンマークの国の考え方、国民が求めている物、社会システムについて、意見を聞く事が出来ました。

その事を通して、学ぶべき事は、福祉その物ではなく、その福祉を築き上げた地方分権的政治、そしてそのために必要不可欠である成熟した民主主義と教育であると言う事を痛感しました。

デンマークには、「国民一人一人が自立できる様に、国民一人一人が支え合う社会システム」が構築され、自治体をベースに市民に浸透している事が分かりました。

この国の国土及び人口は、日本にはとても及びませんが、高負担、高福祉国家であると同時に「世界一幸せな国」と評価されています。

その中で、国民は高い税金を納めても、国民が政府を信用している為、自分が支払った税金が生涯にわたって社会保障に使われ、見える形で還元されている事を理解し納得しています。それは、国民全員が助け合いの精神のもと、高負担によって国が「富を集め」、高福祉によって「その富を再分配する」システムとなっているからです。

誰もが、いずれ高齢者になり、様々な事情で障害者になる事がありますが、充実した医療・介護や育児サービス、教育などが国によって原則無償で受けられる事が保証されていれば安心して生きて行けます。

更に、デンマークでは、子どもが18歳(成人)になり独立すると、夫婦だけの生活になり配偶者が先立つ事があっても子どもと同居する事はありません。つまり高齢者の単身世帯は、一般的な生活スタイルと言う事です。

この事は、デンマーク人の価値観であり、高齢者自身の“自立”と“自己決定”を尊重しながら日常生活を支援すると言う考え方が根付いているからだと思います。

又、福祉サービスの恩恵に依存するのではなく、「できる限り自分の生活は自分で」と言う自立の精神が高いからだと思います。

★教育現場で

10月7日から9日に訪問した、幼児から青年までの教育現場では、自己形成の段階から、教育目的である次の6つのテーマについて学んでいる事を知りました。

- ① 全般的な幼児1人1人の発達
- ② 社会適応力
- ③ 言葉
- ④ 身体と運動
- ⑤ 自然と環境
- ⑥ 文化的表現と価値

そして、おとなの存在は、遊びの動機づけをする事やアドバイスに徹し、遊びを通して知的能力を刺激し、想像力、自立心、連帯性、責任感を養うなど、子どもたちの全人的な育みを基本としています。

この様な教育を通して、社会や家族・自分自身に対する考え方が成熟されて行く事で、高齢者・障害を持つ事になっても、其々自立した生活を望むのだと思います。

★総合保育園

写真は、ヴィンディング総合保育園を訪問



した時の、お昼寝用のコーナーです。

ここで毎日お昼寝をする事で、健康で丈夫な体が育まれて行くようです。

立地条件は、ロスキレ市内より3Km離れていて、村落で近くに教会や学校があるのも特徴です。

市民が子どもを預けたい場所では一番の人気の、一般的に3人の子どもを持つ親が多い為、兄弟が一緒に入れるように考慮されています。

教育の考え方としては、①自分を知らせる(自分は何なのか)②自助を教える③自分中心ではない事を教えています。

子ども達との対話は、色々なインスピレーションを生み、全人的発達、社会的発達になっているとの事でした。

とにかく、日本の季節で言うと11月頃に外で昼寝をさせていると言う事に驚きを感じながら、ここでは年間を通して外で昼寝をしているとの事でした。

★森の保育園

10月9日は、森の保育園

Skovbo Skovbornehave を訪問しましたが、ここでも、多少の雨なら、外で泥んこと一緒に遊ばせている事に驚きを感じました。

開放的な環境は子どもたちのインスピレーションを駆り立て、「？」や「！」を学習して行きながら自由に遊びまわれる空間となっています。

「自分で決定する」と言う事を乳児保育の



頃からしつけており、遊びについても「どこで遊ぶか」「何をするか」などは、全部子どもたち自身に決めさせているとの事です。

次の写真は、先生と子ども達が園から歩いて10分くらいの所ある、鹿公園 Dyrehaven で昼食を取っているところです。まるで家族様です。

★高齢者ケアセンター

高齢者ケアセンター・キャットホルムクリスチャンミナを訪問は午後の訪問だった為、昼食後に利用者の方たちが日差しの当たる所へ集い、団らんしていました。

ここは、全部で4つの家があり、全部同じ作りになっています。ここの施設は100室あります。2部屋が夫婦用になっており、100名以上住むことが可能です。

ここでは、在宅ケアが難しくなった時、ロスキレ市の中央判定委員会が見に行き、PT、OT、看護師が話し合い、本人がホームに入居したいか、を総合判断して決定します。本人の意思が重要との事です。

寝たきりの利用者も生活していますが、寝たきりにさせない、という考え方でケアに当



たっていて、ケアスタッフの専門性のレベルを高める事が、利用者の人生の質を高められると話されていました。

4. 所感

今回の研修では教育の重要性を再認識させられました。

教育のあり方についてですが、日本の「義務教育」に対し、デンマークは「教育の義務」と言う事です。「学校と同じレベルの教育をする義務がある」と言う事で、「必ずしも学校に行かなければならない」と言う事ではなく、「好きな事を勉強させる」と言う考えが基本で、現場実習を重視しています。

デンマークの教育現場にあるのは、どのような職業・職種に就くべきかという職業への関心で、小学校の時点から職業教育が行なわれます。

早い段階から自分が何に興味を持っているか、自分が得意な科目は何か、将来どんな職業に就いたらいいのかを考え、高校生以上になると学校は「資格」を得る場になり、それが就職に直結して行きます。

つまり、教育の目的が「生きる為」(澤渡様談)、と言う事を実感しました。

日本の様に、高校や大学へだけは行っとかなければ、と言う感覚もおきないのだと思います。

又、教育のなかでは、「平等」「民主主義」と言う事に重点が置かれている事や、幼児教育の段階から、社会で生きて行くためのルー

ルを学び、自己決定と自己責任について学ぶ事で、高齢になっても、障害を持っても、自分の事は自分でする、自分で出来る事は自分でする、と言う生き方が出来るのだと感じました。

最後に、高福祉高負担で幸福ランキング世界一のデンマークにも課題は多々ありますが、そこには、長い歴史から生まれた民主主義が実践され、一長一短ながら自由・平等・連帯・共生が確立されています。

今回の視察は、同じ人間として「生まれてから死に至るまで」の人生を、どの様に暮らす事で、又、どの様に支援する事で、人権を尊重した生活（生涯）が営めるか、日本人として学ぶべき事が多くありました。

日本の高齢者介護は、在宅へシフトしていますが、来年度の介護保険法改正の概要を見ると利用者や家族、及び、働く者にとっては非常に厳しい状況です。今後は、介護者法・介護者支援等で先進国であるオーストラリア、イギリス、オランダなどの実情についても興味を持ち、情報収集と共に多くの方との意見交換を通して研鑽して行きたいと思っております。

5. 謝辞

今回のデンマークに学ぶ社会福祉視察研修に於いて、現地通訳及びレクチャーを頂きました澤渡夏代 Brandt 様、訪問先施設に於いて対応頂いた関係各位、及びに本研修を企画実施頂いたひの社会教育センターの中能様や共に研修に参加された皆様方には深く感謝申し上げます。

また、この様な素晴らしい機会を与えて頂きました社会福祉法人一石会 大洋園の大堀隆二施設長、並びに、風の樹の大堀満施設長に深く感謝申し上げます。

更に、快く参加させて頂いた風の樹職員にも心より感謝申し上げます。